

第 20 回揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会 議事要旨

1. 日時 平成 24 年 1 月 17 日 (火) 10:00~12:00

2. 場所 大手町ファーストスクエアカンファレンス ルーム B
(ファーストスクエアイーストタワー 2 F)

3. 議題

- (1) 既存調査で物質名が不明な部分の調査について
- (2) 推計精度向上について
- (3) 規制施設からの排出量推計について
- (4) 地域別 (都道府県別) の排出量推計 (考察) について

4. 出席者

委員：浦野委員長、泉委員、指宿委員、川辺委員、柴田委員、橋本委員、前野委員、山口委員、
油井委員、宇田川氏 (岸委員代理)

環境省：山本大気環境課長、栗林大気環境課長補佐、村井大気環境課排出基準係長

事務局：株式会社 旭リサーチセンター

オブザーバー：伊藤芳友氏

5. 議事内容

- 事務局より、議題 1 「既存調査で物質名が不明な部分の調査について」(資料 1) について説明があり、石油系混合溶剤の物質グループの「その他 (石油系混合溶剤)」と「分類できない石油系混合溶剤」のうち、塗料用石油系混合溶剤と印刷インキ用高沸点溶剤は量的にも大きく、組成が明らかになったので、独立して表記することが提起され、了承された。また、塗料用石油系混合溶剤はミネラルスピリットと芳香族ナフサに分けて表記したほうがよいこと、塗料用溶剤の揮発した排出量である表現のほうがよい、との意見が出された。
なお、その他に、炭化水素系の物質グループの「その他 (炭化水素系)」も 15 万トン近くある。その内訳として大きなものは、個々の物質を単体として表記できる可能性があり、検討をすることにした。
- 事務局より、議題 2 「推計精度向上について」(資料 2) について説明があり、以下のような推計精度の向上に資する検討をすることになった。
アルコール系洗浄剤の大気排出率・・・イソプロピルアルコール工業用洗浄剤は推計精度とは関与がやや低い、東京都環境確保条例による精密機械製造業のデータ参照の検討を試みる。
ラミネート用接着剤の生産量捕捉率・・・日本ポリエチレンラミネート工業会へのヒアリングにより精度向上の検討を試みる。「補足率」を「生産補足率」に修正。
食料品 (発酵) の排出係数・・・欧州と日本の製品の違いを配慮する必要。新しい文献あるいは、日本における測定・検討が課題。
燃料 (蒸発ガス) の排出係数・・・燃料小売業でのガソリンの排出係数の影響は大きい。商品効

率などのデータが利用できないか検討。また、地域による年間平均気温を配慮した排出係数の使用も検討。

ゴム溶剤の排出係数等・・・日本ゴム工業会に最近のゴム製品の種類別生産量の確認の検討。

塗料・印刷インキ・接着剤の業種配分・・・業種配分は産業連関表による推計しか指標がない。

塗膜剥離剤（リムーバー）の需要分野情報不足・・・昨年度までの推計量は小さく推計精度には影響が軽微。なお、N-メチル-2-ピロリドン（NMP）は多くがリムーバー用途との指摘あり。

- 事務局より、議題3「規制施設からの排出量推計について」（資料3）について説明があり、VOC規制対象施設1,149（平成21年度公表値）のうち、661事業所についてアンケートを実施中（うち、日本造船工業会傘下事業所7事業所は工業会経由で実施予定）。アンケートにより、規制施設の平成22年度VOC排出量等を推計する（昨年度に同様調査で回答を得た事業所123、事業所が不明な約365を除く）。督促や各工業会の協力により、回収率を上げる。さらに、母数を上げる努力も行う。約365の調査未実施の事業所があるが、その半数程度にアンケートが実施できるように環境省から自治体へ協力を依頼し、追加してアンケートを実施する。
- 事務局より、議題4「地域別（都道府県別）の排出量推計について」（資料4）について説明があり、VOC排出量に地域の実態が反映されるように、配分指標設定の根拠を明確にして、業種により配分指標を変更する。
- その他の報告事項として、前回の検討会において議論された「VOC排出規制対策の評価のための情報収集について」は、規制と自主的取組の適切な組み合わせ（ベストミックス）の効果を調査する目的で取り上げる事を考えたが、議題3によるアンケートに注力するため、本年は取りやめることにした。
- 次回の検討会の開催は後日連絡をする。

<配布資料>

資料1 既存調査で物質名が不明な部分の考察・検討

資料2 VOC排出インベントリの推計精度向上の考察

資料3 VOC規制対象施設の排出量調査（平成22年度実績）

資料4 地域別（都道府県別）の排出量推計（考察）資料